

2014年第1回(通算第9回)脳科学将来構想委員会 議事録

日時：平成26年11月2日(日) 13:00~15:00

場所：独立行政法人理化学研究所 東京連絡事務所

出席者：水澤英洋連合代表、岡部繁男連合副代表、伊佐正委員、望月秀樹委員、木山博資委員、池谷裕二委員、岡澤均委員、花川隆委員、岡本仁委員、柚崎通介委員、山森哲雄委員(欠席：山脇成人連合副代表、川人光男委員、笠井清登委員、尾崎紀夫委員、鍋倉淳一委員、高橋良輔委員)

脳科連事務局 鈴木、根本、立花

1. 開会にあたって水澤代表より挨拶があり、役員が改選になったこと(水澤英洋代表、岡部繁雄副代表、山脇成人副代表)、参加学会数が19から22に増加したことが紹介され、脳科学関連学会連合の存在意義として、政府や国に対して各学会が個別に主張するのではなく、脳科学コミュニティが集まってアピールし、適切な研究費の予算配分など訴えていくことが重要である旨が述べられた。
2. 引き続き、岡部副代表から、将来構想委員会の目的、これまでの活動についての説明がなされた。
3. その後、各委員の自己紹介の後、委員長を選定が行われた。事前に推薦のあった候補者について9名の当日投票と5名の事前投票の結果を集計し、伊佐委員が委員長に選出された。
4. 伊佐委員長より挨拶があり、副委員長として川人委員と尾崎委員を推薦したいという意見表明があった。これら候補者をメールで当日の欠席委員も含めて全員に流し、承認を取ることとした(後日、異論なく承認された)。
5. 今後の進め方について、脳科学委員会の作業検討部会の活動について岡部副代表より報告がなされた。調査検討事項は、(1)脳科学研究の現状と課題について、(2)戦略的、重点的に推進すべき研究課題について、(3)推進体制及び効果的な連携のあり方について、(4)その他となっている。これらについて意見交換を行い、脳科学関連学会連合として、研究者コミュニティの声を作業検討部会に対して申し述べるために内容を検討していく方針を確認した。特に、これら4項目とそのサブ項目について、将来構想委員会としての意見をまとめるための担当者の割り振りを行った。また、学術会議のマスタープランなど今後の活動の対象と想定される事項についても情報交換、意見交換を行った。

以上

2014年第2回(通算第10回)脳科学将来構想委員会 議事録

日時：平成26年11月30日(日) 18:00～20:00

場所：ネット会議

出席者：伊佐正委員長、川人光男副委員長、尾崎紀夫副委員長、笠井清登委員、望月秀樹委員、木山博資委員、池谷裕二委員、岡澤均委員、花川隆委員、岡本仁委員、柚崎通介委員、山森哲雄委員(欠席：鍋倉淳一委員、高橋良輔委員)

オブザーバー：岡部繁雄副代表、加藤忠史先生(理化学研究所)

I. 冒頭、伊佐委員長より、12月9日(火)に開催される脳科学委員会作業検討部会において、脳科学関連学会連合将来構想委員会としての検討状況をプレゼンテーションしてほしいとの連絡を受けたことに対し、報告内容を検討することが目的であるという会議の趣旨についての説明があった。

II. 引き続き、事前に用意された資料に基づき、作業部会での検討項目のうち

1. 脳科学研究の現状と課題について

2. 戦略的に推進すべき研究課題について

2-1. 臨床と基礎の連携強化による脳科学の社会貢献

(1) 発症メカニズムの探究

(2) 新しい診断技術の開発と早期発見

(3) 病態を反映したモデル動物の開発と創薬への応用

(4) 新しい疾患概念と革新的治療技術

2-2 脳の情報処理の理解とその応用による社会貢献

2-3 脳の機能回復・代償・補完の実現による社会貢献

の各項目について意見交換、プレゼンテーションのための資料案の改定を行った。

以上

2014年第3回(通算第11回)脳科学将来構想委員会 議事録

日時：平成27年4月21日(火) 20:00～21:20

場所：ネット会議

出席者：伊佐正委員長、川人光男副委員長、笠井清登委員、望月秀樹委員、木山博資委員、池谷裕二委員、花川隆委員、岡本仁委員、柚崎通介委員、山森哲雄委員、鍋倉淳一委員 (欠席：尾崎紀夫副委員長、岡澤均委員、高橋良輔委員)

オブザーバー：松田哲也先生(玉川大学)

脳科連事務局 馬塚

議事要旨

1. 最近の動向について

本年2月13日の脳科学委員会以降の動き、特に脳科学委員会の委員の交代、AMEDの発足などについての情報共有をした。特に脳科学委員会の作業検討部会における「戦略的に推進すべき課題についての検討状況」、また、AMEDで既存のプロジェクトの補強や次年度発足の可能性のあるプロジェクトの前倒しなどを目的として、調整費を検討する動きがあることなどについて情報共有を行った。さらに、脳科学委員会及び作業検討部会での議題に挙がっているながら、まだ十分に検討がなされていない課題、さらには脳科学委員会で利根川進氏によってプレゼンテーションされた研究計画についての意見交換を行った。

2. 学術会議のマスタープラン

次期の学術会議の「マスタープラン2017」について、今後の日程として、5月9-11日の学術会議で今後のアウトラインが出さて、2016年3月に募集が締め切られる。その後夏に検討、秋に学術会議で選定がなされ、2017年3月に文部科学省の学術機関課において最終的なヒアリングによる評価がなされるというタイムテーブルであることを確認した。そして将来構想委員会として、学術会議の関連部会や、受け皿となる研究機関と連携しながらの検討を開始することとした。

(資料1) 脳科学委員会(2月13日)の資料

(資料2) AMED関係資料

(資料3) 戦略的に推進すべき研究課題 2-3案

(資料4) 学術の大型研究計画検討分科会の委員名簿

以上